

2014 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は刑法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 刑法

【問題】

以下の〔事例〕を読んで、〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

Xは、YおよびZと居酒屋で酒を飲んだ帰り、尿意をもよおしてきたので、「先に行ってくれ」と言って電柱の影で立小便をしていた。YとZはXに言われたとおり、先を歩いていたが、通行人Aが向こうから歩いてきたとき、YがZに小声で「あいつを殴って金を奪おう」と言い、Yは黙って頷いた。Yは、Aとすれ違いざまにいきなり「金を出せ」と言いながら、Aの顔面を殴りつけた。そして、Zは、倒れたAに馬乗りになってポケットの中から財布を取った。少し離れた距離から事の成り行きを見ていたXは、とっさのことで驚いたが、自分もYとZの犯行に加わろうと考えて、YとZのところに走って行き、Y、Zと共同してAの腕時計を外し、路上に落ちていたAのカバンを奪って逃げた。

なお、AはYの殴打によって顔面に治療2週間の傷害を負った。

〔設問〕

X、Y、Zの罪責について論じなさい。

以上

専門論文試験 刑事訴訟法

【問題】

以下の項目，用語ないし原理などについて，簡潔に説明せよ（なお，判例を前提にする）。

- (1) 令状逮捕の要件と手続について
- (2) 強制採尿と令状主義
- (3) 自由心証主義
- (4) 違法収集証拠排除法則について